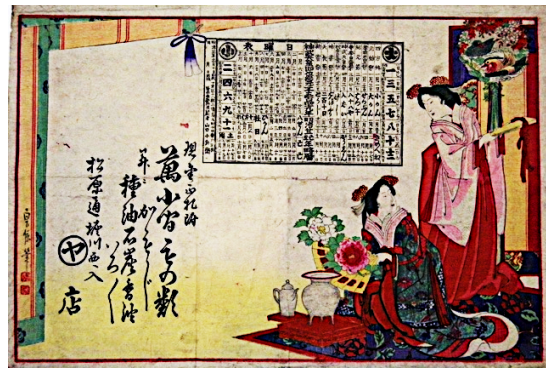


正月用引札と暦の諸相

【概要】

明治半ばから大正にかけて、日本では「正月用引札」と呼ばれる広告媒体が大流行を博していた。正月とあるだけに、極彩色にいろどられた、めでたさを表す図像が多く見られる。また暦が付されたものも少なくない。本講演では、正月用引札の生産・流通・消費の諸相と暦との関係、多種多様な図像について紹介していきたい。



明治二十二年略暦付 正月用引札

日時

令和 7 年 12 月 3 日(水)

午前 11:00(開場 10:00)～〔講演後『2026 年暦予報』を発表。午後 12:50 終了予定〕

講師



大阪成蹊大学 准教授 熊倉 一紗 氏 Kumakura Kazusa

同志社大学大学院文学研究科博士後期課程修了。博士（芸術学）。専門は、明治から昭和初期における日本の商業グラフィック・デザイン史、近代日本美術史。主な著書に『明治・大正の広告メディア―〈正月用引札〉が語るもの―』（単著、吉川弘文館、2015 年）ほか。

場所
および
配信

会場参加、リモートともに、どなた様でも参加／聴講 可能、無料です【いずれも要申込】

【場所】明治神宮 参集殿にて

東京都渋谷区代々木神園町 1-1

リモート配信閲覧の場合は、

暦文協ホームページを参照ください

【申込】会場参加、リモートとも電子メール（info@rekibunkyo.or.jp）または電話にて暦文協事務局までお申し込みください。ホームページ <https://www.rekibunkyo.or.jp>

【注意】お車でのご来場はご遠慮ください。

12 月 3 日は「カレンダーの日」

明治 5 年（1872）11 月 9 日、宮中において改暦式が行われ、大勢の役人が参席する中、明治天皇は大臣を従えて賢所便殿に出御し、伊勢神宮を遥拝し暦法改正の由を親告なされました。明治天皇の詔書が発せられると、政府は太政官布告により「来る 12 月 3 日を以て明治 6 年 1 月 1 日とし太陽暦を実施する」と公布。長い間、太陰太陽暦で生活していた国民にとって、突然の改暦は大変大きな衝撃でした。しかしその結果、太陽暦を採用する諸外国と足並みを揃えることになり、日本は文明開化の道を歩み始めました。

この史実に基づき昭和 63 年（1988）に、全国団扇扇子カレンダー協議会、並びに全国カレンダー出版協同組合連合会によって 12 月 3 日は「カレンダーの日」と定められました。

主催



一般社団法人

日本カレンダー暦文化振興協会

Japan Association for Calendars and Culture Promotion

お問合せ 事務局

〒110-0016

東京都台東区台東 1-27-11 佐藤第 2 ビル 204 号

TEL 03-5816-5066 FAX 03-5816-5036